

質及び原因を判断し明確なる一定の結論を下せし時に方て初めて直に科學的の歴史哲學を構成し歴史科學の完全を告ぐるに至るものとす。

蓋し合力の結果現存文書が皆發見訂正配列せられて既に遺蹟を失ひし事實も之が爲めに一定するの時代到來するやも知れされど而も其の時に於て歴史は一應定まれとも尙ほ堅固不拔に確定するものに非ず。歴史は現實社會の直接研究か益々科學的となり社會上の現象及び進化が仍ほ適當に了解せらるゝに従ひ漸々變形するものなり。疑もなく社會事實の性質原因及び双對的の必要に關して得たる新思想は過去の社會及び事件に關して構成せし觀念を變換するものなり。

二 蓋し歴史は元來處世の方法即ち個人又は國民に對して直接の利益ある教訓を與ふるものなり(Historia magistra Vitae)と云へる斷定の誤れるとは既に前述せるが如し。尤も人生行爲の行はるべき事情は古今相符合するほど均しきものに非るを以て歴史上の教訓を直ちに應用する能はざるは勿論なりと雖もさればとて歴史の體様各々異なるより毫も人性に利益なしと言ふに非ず。即ち歴史は間接の功用を有す。歴史は現在の物の有様の根源を説明する範圍内に於て現在を

了解するを得せしむ。是に於てか歴史は其の包括せる時の全範圍を一貫して同等の利益を有せざるを許さざるべからず。例へば現今英國の政治制度を説明する爲めにアングロサクソン人の Wulfstan (賢人會)は毫も必要なしと雖も十八世紀及び十九世紀の研究は大に必要なるが如し。近世に於ける文明社會の進化は最近數百年の歴史が前十世紀の歴史よりも尙ほ一層研究するの價值あるものなるを悟るに至れり。

凡そ史學は今も仍ほ組織全く固定の域に達せざる政治學、社會學を完成する上に於て缺くべからざるものなり。靜止の状態に在る社會現象の直接觀察は未だ右諸科學の十分なる基礎に非るか故に之に加ふるに遺般の政治的、社會的現象の發達の研究即ち史學の研究を以てせざるべからず。是れ人生に關する諸科學、語學、法律學、宗教學、經濟學等が現世紀に於て歴史的形式を加味せし所以なり。

然りと雖も史學の重大なる效用は即ち知能的修養の機關としての效績に歸着す。即ち第一本書に於て上來説明し來りし史學研究法は心意上に效驗を與へ濫信の弊を治すべし。第二種々の異なる社會を常に眼中に置くを以て風俗の變化を了

解し且つ之を調和する傾きを養成す。即ち社會は屢々變遷するものなるを吾人に示すが故に社會的形式の變化に慣れて之を憎惡するの情薄らぐべし。第三過去の進化を熟思し如何にして人間の變遷が風俗の變化及び時代の革新を來せるかを了解するが故に社會進化(動物進化と同原因の作業より生ぜざる)の説明に生物學上の譬喩(自然淘汰生存競争遺傳的習慣等)を應用するの傾向を抑正するものなり。

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な縦書きの文章が続く）

フンクローア及ニ
ニ
歴史研究法綱要 (大尾)

る、文

41
102



41

10

名著網要
文學教育科
ラングロア及セーニョーボ
氏
歴史研究法網要

村川堅固
石澤養身

000277-000-6

41-102

歴史研究法網要 (ラングロア及セーニョーボ氏)

M33-34

ACA-0468

